

家庭科教育における一貫性のある被服教育内容

京都教育大 ○山崎隆 杉本弘子 奈良教育大 中谷和

神戸大教育 稻垣和子 和歌山大教育 福本富美子

兵庫教育大 岩崎雅美 滋賀大教育 與倉弘子

目的 教課程において家庭科教育の履修形態や教育内容の見直しが検討されているなかで、特に被服教育に対する批判は他の家庭科教育の分野より一段と厳しい。急激な社会の変化に対応し、健康で快適な被服生活が営めるような被服教育を行うために、新しい視点にたって小・中・高の一貫性を考え、カリキュラムの編成を試みた。

方法 現在の被服領域の教育課程の見直しとすると、志を同じくする近畿の教大協家庭科部会の被服教育担当教官が、61年秋以来(中間まとめの報告が出されて以後)会合を主催検討した結果、次のような試案を作成した。

結果 人体と被服との関係を重視し、人間が生きていくために必要な被服が、心と身体に快適であるためにはどのような要素で、どのような形態のものを、どのように着用すればよいか。又、社会の中での被服生活の在り方、更には価値ある被服文化と創造するためには学校教育の場ではいかにあるべきかを考えて、カリキュラムを計画した。次にその大項をかかげる。

小学校

- からだと衣服
- からだの動きと衣服
- 楽しい衣服

中学校

- 健康と衣服
- 生活活動と衣服
- 社会生活と衣服

高等学校

- 健康管理と被服
- 豊かな衣生活の設計
- 被服文化